



春の競演 山の手倶楽部 青木和之氏

文化・学術・芸術

文化・学術・芸術



桂坂は、文化的環境にとっても恵まれています。国際日本文化研究センター（日文研）・京都大学桂キャンパス・桂イノベーションパークがあり、また近隣には京都市立芸術大学・京都市立音楽高等学校があります。

私たちはこれらの学術・芸術の専門機関から、講演会、演奏会、子どもたち対象の実験教室や出前授業など、知的な恩恵をたくさん受けることができます。このようなさまざまな知的、あるいは美的刺激は、他の地域の人たちにとっては羨望の的となっていることでしょう。

私たちは桂坂20年の歩みの中で、与えられる文化の、単なる受容にとどまらず、独自の文化をしっかりと育んできました。今後も、さらに心に潤いのある暮らしのために、地域の織り成す文化を充実させていくことが、必要となるでしょう。

地域の文化活動

各種団体の同好会・サークル

山の手倶楽部と地域女性会

山の手倶楽部の16の同好会のうち文化系の同好会「写真」「書道」「俳句」「絵画」などは、日ごろの活動の成果を「趣味の作品展」で発表し、また、野鳥遊園ラウンジにおいてもそれぞれの同好会が作品を月替わりで展示、来園者の目を楽しませてくれます。一方「コーラス」は西京区老連の「文化芸能祭」や、かつて檜原廃寺跡で行われていた「名月鑑賞の夕べ」「カザラッカコンサート」などで、いつも若々しいハーモニーを披露されています。

地域女性会も各同好会は活発に活動され、毎年「作品展と手作りバザー」を開催されています。

2008（平成20）年秋、学区創立20周年の記念事業の一環として行われた、山の手倶楽部・地域女性会・社会福祉協議会の「合同作品展」はそれぞれ力作ぞろいで、展示にも工夫の凝らされた、大変見応えのあるものでした。このように、「共同」で展覧会を行うことは展示規模の大きさだけでなく、作品を通して交流することで、互いに創作意欲を刺激しあい、文化活動の輪をさらに広げることとなるで

しょう。

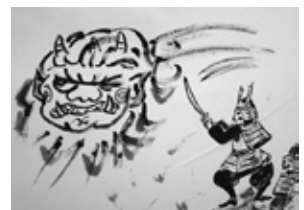
また、女性会が毎年開催している「春のコンサート」は、会員以外の一般住民も参加でき、小学校のふれあいルームでの演奏会は、サロン風の催しで演奏者と聴き手の距離が近く、両者一体となって音楽を楽しむことができます。

桂坂小学校PTA文化部

桂坂小学校のPTAでは部活動が盛んです。

「コーラス部」は練習の成果を西京西支部の8校で行われる「ほほえみコンサート」や「カザラッカコンサート」で披露され、毎年、年度末には「ミニコンサート」を開いています。また、特別養護老人ホーム沓掛寮の皆さんとは、歌で年齢を越えた交流を楽しんでいます。

「本とお話のクラブ」では昼休みや土曜日に本の読み聞かせを行っています。また、授業の一環としてのお話会も開き、子どもたちにとって読書に親しむ重要なきっかけとなっています。中でも、毎年6年生を対象に行われる「桂坂・大枝の歴史」では、住んでいる街の歴史を知る手がかりを分かりやすく解説しています。その時に大きな手作りの絵巻物を使い、三味線の演奏を加えて演じられる鬼退治伝説「酒呑童子」は圧巻です。



木もれ日・ひなたぼっこ

社会福祉協議会に属しているサークルに、「木もれ日」と「ひなたぼっこ」があります。

朗読サークル「木もれ日」は朗読を通して、高齢者、身体の不自由な方、子どもたちに物語の魅力を伝え、ともに心地よいひと時を過ごしてもらうことを目的に「社協」主催の高齢者会食会、すこやかサロン、療護園で朗読ボランティアをされています。



そのほか、一般を対象に定期的に朗読発表会を開き、その一つである、朗読劇「源氏物語」は今や桂坂、京都にとどまらず、

2009（平成21）年6月にはフランス・パリ国立高等師範学校で公演されるなど、広く活躍されていることは記憶に新しいところです。

またお話ボランティアサークル「ひなたぼっこ」では、お話の世界を楽しむことを通して、子どもたちの心が豊かに育つことを願い、桂坂小学校PTA「本とお話のクラブ」のOBが活躍しています。すこやかサロン、大枝中学校、桂坂小学校、洛西地区の児童館や幼稚園でも読み聞かせや人形劇、大型紙芝居など、演出に一工夫されています。

その他の文化活動グループ

桂坂には各種団体に所属して文化活動をしているグループだけでなく、独自に活動している団体もあります。

シルフィード合唱団

「シルフィード合唱団」を作られたのは桂坂小学校PTAコーラス部のOBの方々でした。今は桂坂以外の地区からも参加されているようですが、練習の拠点は桂坂です。

活動の場は広く、西京区「社協」主催のふれあい事業、区民文化のつどい、らくさいさくらまつり、また、亀岡市で毎年7月に開催される「七夕平和交流コンサート」など、様々な行事に出演されています。2008（平成20）年3月、京都府立府民ホールア

ルティで行われた合唱団初めてのコンサートには、多くの桂坂の人が聴きに訪れました。

本とお話の会「パンフルート」

大枝児童館や洛西図書館で活動している「パンフルート」は、桂坂小学校PTA「本とお話のクラブ」も同時期に立ち上げられました。現在会員は桂坂小学校PTAのOBが中心となり、他の地域の方も加わって、本やお話を通して読書活動の推進や、子育ての支援をされています。会の発足10年目の2007（平成19）年には、長年のボランティア活動の功績により「京都市子どもの読書活動優秀実践団体」として、「教育長賞」を受賞されています。

桂坂手づくり絵本の会

「桂坂手づくり絵本の会」は今の子育て支援のような意味合いを持って、すでに18年前から「お母さんと子どもが世界にたった一冊の本を作る」活動をしています。その作品は毎年10月の読書週間の頃、洛西図書館で展示会を開き、一昨年からは野鳥遊園ラウンジでも展示をしています。



（京都新聞 2008.10.30朝刊より）

桂坂小学校PTAで文化活動を経験された方々は、子どもの卒業後も新たなグループを立ち上げるなど、地域で盛んに文化活動を行っています。自分達の楽しみの域を超え、ボランティア活動でも地域に貢献されています。

今後、年を重ね地域女性会や山の手倶楽部に参加されると、その経験が活かされ、よりいっそう桂坂の文化活動は充実したものとなるでしょう。

文化活動の拠点

ここにあげたグループだけでなく、桂坂にはもっとたくさんの方々が独自の文化活動を展開されていることでしょう。

では、こうしたグループはいったいどこで活動されているのでしょうか。今、桂坂で活動の拠点となっている所はふれあい会館、中央信用金庫の2階、桂坂自治会館、各自治会館、小学校の「ふれあいルーム」などです。場所によっては、桂坂自治連合会が認めた会しか使用できないところもあります。誰も彼もが勝手に使ったのでは統制が取れなくなるので、利用上の制約は当然でしょう。しかし、桂坂の文化創造、表現活動の発展のためには今後、住民がもっと利用しやすい環境を整えることも必要となってくるでしょう。

カザラッカコンサート

今や桂坂の風物詩ともなっている「カザラッカコンサート」。1993（平成5）年に「オーケストラとあそびましょう」と題して始まり、翌年には「かつらざか」を逆さに読んで「カザラッカ」と名前を変え、以後16年間地域の人々に親しまれています。このように長い間継続していることは、京都市立音楽高等学校のご協力と主催者である桂坂小学校PTAの努力の賜物でしょう。

2004（平成16）年第12回より名称を「カザラッカコンサート」から「桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート」に変更されました。なぜ「桂坂・音楽の集い」という言葉を補ったのか、当時、PTA会長有賀郁敏氏は次のように述べられています。

地域の音楽文化を創造し、発展させていくことを展望するなら、桂坂学区で生まれている個々の音楽文化にも着目し、それぞれの成果を統合させることは、この目的を達成させるための環といえます。それはまた、自前の文化の創造にも寄与してきたカザラッカコンサートの方向性とも一致しています。例えば、小学校では正課の音楽に加えて音楽のクラブ、部活動も展開され、PTAにはコーラス部があり、また小学校以外にも大枝中学校に吹奏楽部、山の手

倶楽部にコーラス部があります。さらに、地域住民の中には音楽に興味をもたれ自ら演奏されている方々もおられるのではないのでしょうか。桂坂音楽の集いが、こうした諸々の取り組みの結節点として機能するのであれば、学区における音楽文化の個性が、これまで以上に花開くのではないかと思います。

（「桂坂小学校PTA2004年度活動の記録」より）



これ以後、コンサートは第Ⅰ部では小学校児童、大枝中学校吹奏楽部、教職員のグループ、PTAコーラス部、山の手倶楽部コーラス部などの方々の演奏、そして第Ⅱ部は音楽高校の演奏の二部制となりました。学区20周年記念に行われた第16回では、PTAならぬ「PTCA—親・先生・子ども」の三者による合同のパフォーマンスが見られました。

小学校で行われる手作りのコンサートは、オーケストラの演奏にとって、必ずしも良い条件ではないかもしれません。しかし、この16年間、毎年素晴らしい演奏を披露していただいている京都市立音楽高等学校の皆さんは、この「カザラッカコンサート」についてどのように思っておられるのでしょうか。

音楽高校で指揮・指導をされている藏野雅彦先生は、第16回の開催に際し、次のようなメッセージを寄せておられます。



桂坂小学校創立20周年おめでとうございます。

私達京都市立音楽高等学校は、小学校創立の年から桂坂での音楽の集いに参加させていただき、現在まで20年の長きに亘り桂坂と共に歴史を刻んで参りました。今年で16回目となるカザラッカコンサートは、現在音楽高校の重要行事となっており、生徒たちは毎年この日を心待ちにしております。ここで学んだことを生かし、数多くの卒業生が日本のみならず世界中で活躍しております。貴重な演奏の場と、毎年頂く暖かいご声援に心から感謝するとともに、「桂坂音楽の集い」が今後ますます発展し、音楽のあふれる街桂坂となることを心から願っております。

〔第16回桂坂・音楽の集いカザラッカコンサート〕

プログラムより)



今後、この「桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート」が地域の音楽文化として、地域のより多くの方々が出演される場となることを考えると、小学校PTAにかなり負担がかかるでしょう。単なる学校行事の一つとしてではなく、地域の行事として発展を願うのであれば、地域からも運営のお手伝いをしなければならぬかも知れません。そのためにも、地域の創造的な文化活動を取りまとめるようなところが必要となってくるのではと思われます。

時代祭の行列に参加

京都三大祭の一つである「時代祭」。

1895（明治28）年平安遷都1100年を記念して、桓武・孝明の両天皇を祀る平安神宮が創建されました。この記念事業として、時代祭は桓武天皇が長岡京から平安京に遷都された日である794（延暦13）年10月22日にちなみ、平安時代から明治維新までの風俗の変遷を、明治から順次延暦時代へと遡って再現する時代行列が行われることになりました。これが時代祭の始まりです。そして、祭りや建造物の維持保存を目的に、市民により平安講社が組織されました。以後、戦争や災害の危機も町衆の努力で乗り越え、現代に受け継がれています。

毎年、西京区平安講社第九社は各学区が持ち回りで「楠公上洛列」を勤めることになっています。2007（平成19）年10月22日、桂坂学区の当番で、自治連合会の役員をはじめ各種団体の協力のもと桂坂平安講社が中心となって準備が進められました。

祭りの前日には、貴重な衣装・祭具などが運び込まれ、着付けの指導を受けるなど本番に備えました。その衣装や祭具の警備は、交代で夜を徹して厳重に行われました。

当日は、朝早くから着付けをし、9時頃には小学校校庭をパレードしました。待ち受けていた子どもたちは、タイムスリップしたかのような武者姿の行列に興味津々、感嘆の声を上げていました。

今度この大役が回ってきた頃は、この子どもたちが中心になっていることでしょう。



国際日本文化研究センター

日文研



「日文研」はどんな所？

異なる学問分野の研究者が、日本文化を国際的な視野にたって、総合的に研究することを目的として、1987（昭和62）年に設立されました。日本国内だけではなく、海外からの研究者も迎え、現在約70名が研究活動を行っています。

「日文研」らしさ その1

たいていの大学や研究機関では、講座ごとに教授・准教授・助教という序列のようなものがありますが、「日文研」はそういう制度になっていません。教員が一人の学者として尊敬されているかわりに中途半端は許されない、という研究所です。

「日文研」の研究活動は、「個人研究」「基礎研究」「共同研究」の三つに大別されますが、「共同研究」が特徴的。

それぞれの専門分野の研究だけではなく、視野を広げるため、一つの研究テーマのもとに、専門分野の異なる国内・海外からのメンバーが集まって議論するのです。

「共同研究」について、尾本恵市元「日文研」教授は次のように記しています。

日文研では、何者にも邪魔されずに好きなことを勉強するという学者の原点に立つことができた。そして、人類学の本質が学際的な学問であることをあらためて認識し、自分なりに「面白い」と思った切り口を掲げていくつかの共同研究を実施したのである。……これらはすべて、自然科学から人文・社会科学に至る幅広い専門研究者の協力による学際研究で、もし私が日文研に来なかつたらとても実現できるものではなかった。

（「日文研」エッセー「カヴァを飲む」

国際日本文化研究センター、1999、No. 21、p. 7-p. 8）

「日文研」と桑原流「共同研究」

「共同研究」という方法を、自然科学系以外の学問で初めて取り入れ、日本に定着させたのは、フランス文学者であり京都学派のリーダー、桑原武夫氏（1904～88）です。

1948（昭和23）年、京都大学人文科学研究所において、『ルソー研究』で初めて「共同研究」を採用し、12人の異分野の専門家が協力しました。桑原氏は、このように言っています。

相互に自由に協力し合いたいという「精神的欲求によって結集する」グループである。そしてそこでは、研究者の仕事が論文あるいは著書になって出てこないさきに、それを聞いていて、あの男はいつもこう考えている、それがいまこう言ったのだから、こういうことに違いない、とすぐつかめるような、そういう学者の集まりを求めているのです。……他の領域の仕事がわかり、少なくともわかろうという熱意を持つ専門家たちの集まりが必要なのであります。

（『桑原武夫 その文学と未来構想』

杉本秀太郎編、淡交社、1996.8.24、p. 18）

では、「共同」で研究するとは、どのようなことをするのでしょうか？

一例をあげますと、会読（一つの本を皆が寄って深く読んでいくこと）……これをするによって深く切りこんでゆく。同じテキストに皆で迫ることによって、共通の訓練ができる。……ルソーの研究をやったときに、同時に、その『コントラ・ソシアル』（『社会契約論』）の反訳をくわだてました。共同研究の参加者が一週間に一日寄って、あらかじめこしらえてきた訳稿をみんなでたたき合って決定稿をつくり出す勉強をやったのでありますが、これはきわめて有効な方法で、……

このような「共同研究」のスタイルが、「日文研」の特徴のひとつです。桑原氏は、早くから日本文化研究機関を京都に設置する必要を説き、「日文研」設立に尽力しました。

このことを梅原猛「日文研」初代所長は、次のように語っています。

インターナショナルな日本研究、それをやはり先生は目指されていた。……桑原先生と文部省のお役人をよんで、どうしても（日文研を）作らねばならぬ、作ってほしいと交渉した。文部省のお役人がなかなか思い切れないとき、桑原先生は「私の一周忌にできるようなことではあきまへんで」と言われた。これは迫力があつたですね。反対している人もちょっと顔色を変えた。そういう形でできた。

「日文研」ができて一年目の1988（昭和63）年に行われた国際研究集会には、桑原氏の大好きな、レヴィ＝ストロース氏を招聘。桑原氏は病身をおして参加。そのために「国際日本文化研究センターに殉職された」（松田道雄氏）とまでいわれています。

桑原武夫氏を偲ぶ七回忌の集まりが、1988年4月10日の命日に、「日文研」ホールで行われました。これは「日文研」としての事業ではなかったのですが、桑原氏と「日文研」との深い縁を感じさせてくれます。

「日文研」らしさ その2

施設の設計を手がけたのは、建築家・内井昭蔵氏。研究施設や図書資料室などが、機能別に個別に分散配置されていて、それを回廊で結び、ゆるやかな統一をはかる、という設計思想で構成されています。「日文研」の研究活動のありかたそのものを表現したものと言えそうです。



「出前授業」



「ほんものの知性にふれてほしい」と、1996（平成8）年7月から、「日文研」による桂坂小学校での「出前授業」が始まりました。初回は、梅原猛氏をはじめ、河合隼雄氏、尾本恵市氏ほかが特別講師となって、5・6年生の9クラスを対象に、それぞれ社会、道徳、理科の特別授業が行なわれました。

このときの授業内容は、『小学生に授業』という本になり、「小学館文庫」の一冊として出版されました。

「出前授業」は、新聞でも採り上げられました。その中で、授業を担当した教授の話が紹介されています。「短い時間で本質的なことを教えることが大事だと思います」「子どもの顔を見てみると、分かっているのかとか、飽きているのか分かってしまう。正直ですね」。小学生が相手だけに、分かりやすく、しかも興味を持ってもらえるように、教授たちは苦心しているそうです。

（朝日新聞京都版「学校の風景」、1999.11.12）



どんな授業なのか、ちょっとのぞいてみましょう。たとえば「自然に学ぶ」と題された「理科」の授業は、こんな具合です――

僕は尾本といいまして、人類学という学問をやっています。じつは、僕がみなさんと同じくらいのはきは、チョウばかりを採っていたのです……

ある日、「キベリタテハ」という、東京にはいないチョウが家の中に飛び込んできた。尾本少年は、採ったばかりのチョウを、詳しい人に見せたところ、これが「東京初記録」となったのです。

これをみなさんはどう思うかな。ただ運がよかっただけだろうと思うでしょう？ 僕はそうは思わない。

運というのはね、ただ黙っていれば上からボンと降ってくるものだと思っていたら大間違い。運というものは、みんな自分でつかむものです。……僕はいろいろな図鑑を見て知っていたから採ることができたのです。……勉強をしていると、その運が近くへ来たときに、グッと押さえることができるわけです。

話は、留学中にチョウ採集旅行へ行ったことなどに及び、チョウの進化に興味をもったことがきっかけとなって、人間の研究をすることになった、と話されます。

専門分野「分子人類学」（遺伝学＋人類学）の成り立ちから最新の話まで、「人種」の話を中心に、スライドを見ながら、子どもたちは説明を聞きます。45分が経ち、チャイムが鳴り始めました。

人種なんて、じつはほんのささいな違いなのです。われわれはホモ・サピエンスという種類の動物ですからね。

自分で考えることが大切です。

先生の言うことは正しい、だけど学校で教わることの奥に、なにか大事なことがあるのではないか、という疑問をもつことが必要です。

「成功のひけつ」

1. 好奇心（なにかを好きになる、人まねはしない）
2. 集中力（やるときは、わき目もふらずに）
3. 持続力（すぐにあきてはだめ、ねばり強く）

この三つがあれば、だれでもどんな仕事でも成功できます。

それでは僕の授業はこれで終わります。

（『小学生に授業』河合隼雄・梅原猛編、小学館、1998.6.1、p.99-p.134）

「出前授業」は、現在も続けられており、2008（平成20）年度は、ジョン・グリーン准教授による「神社の話」、早川聞多教授による「絵で見る400年前の京都の町の人びと」など、8科目の授業が、5・6年生を対象に行われました。

「日文研」ホール

「日文研」にホール（講堂）が完成したのは、1994（平成6）年5月。

センター内のシンポジウムや学術研究発表の場ですが、一般市民を対象にした講演会や演奏会などにも、幅広く使用される施設です。扇を拡げた形で、客席数は575。

このホールで演奏しました

桂坂小学校のPTAは、2004（平成16）年と2006（平成18）年に、ここで「カザラッカコンサート」を開催しました。（2004年から「桂坂・音楽の集い—カザラッカコンサート」と名前が変わり、内容も二部構成になっています。）

2008（平成20）年には、大枝中学校が、ここで合唱祭を開きました。



大枝中学校合唱祭

「桂坂文化フォーラム」開催

1994（平成6）年9月25日、西洋環境開発（現西洋ハウジング）の主催する、第8回「桂坂文化フォーラム」が、「講演とチェロをきく午後」と題して行われました。

第一部は、井上章一「日文研」助教授（当時）の講演「人形が語る日本文化の伝播」。

第二部は、ポーランドの二人の奏者によるチェロ演奏会。前日開催された「八ヶ岳高原音楽祭」に参加した、その足で桂坂に来られました。チェロ：アンジェイ・パウアー、ピアノ：ピョートル・アンデルシュベスキーの二人が、ブラームス「ヴァイオリン・ソナタ第一番〈雨の歌〉」などを演奏され、桂坂住民450人が楽しいひとときを過ごしました。

（『るびたき』西洋環境開発 1994.11.25）

わたしたちも参加できます

学術講演会と公開講演会

「学術講演会」は、研究活動の内容や成果を広く一般の人たちにも理解してもらおうと、毎年3～4回定期的に開催される講演会で、「公開講演会」は、国際研究集会などが開催されるのに合わせて、行われる講演会です。

大江健三郎氏も講演しました

時には、「日本研究・京都会議」という国際会議の開幕を告げる公開講演なども行われます。

1994（平成6）年10月17日、ノーベル文学賞を受賞したばかりの大江健三郎氏が、受賞して最初の講演「世界文学は日本文学たりうるか」を行ったのは、実はこの公開講演においてでした。当日は、マスコミ各社が大江氏を追って桂坂に大挙して集結しましたが、私たちも思いがけない幸運に出くわしたことになります。（『創立10周年記念・桂坂』p.96-p.97）



回廊にかこまれた中庭（一般公開）

日文研フォーラム

日本に住んでいると気づかない意外な日本の姿や評価、海外の研究者から見た日本人の印象などについて、来日中の外国人研究者が発表します。「キャンパスプラザ京都」や「ハートピア京都」で開かれるこのフォーラムにも、多くの市民が参加されます。

「日文研」の一般公開

毎年、秋の紅葉の時期に実施されます。図書室・セミナー室などの施設公開のほか、講演会や公開討論会なども開かれ、展示コーナーを設けて、「日文研」所蔵資料の展示も行われます。



一般公開講演会

ほかに、「特別講演会」、「公開セミナー」、「伝統文化芸術総合研究プロジェクト」の企画などが、不定期に開催されます。

わたしたちも利用できます

データベース

「日文研」のホームページでは、いろいろなデータベースが公開されています。

所蔵の稀覯本、古写真、名所図会のデータベースや、「怪異・妖怪伝承データベース」というものもあります。

図書館

ほかの図書館には無い本を読みたい場合、公共図書館などの紹介状が必要ですが、「日文研」の図書を利用することができます。



図書館（一般に公開）

レストラン「赤おに」

「レストラン赤おに」へは、「日文研」の正面玄関から入る以外に、野島遊園の向かいから下りていく道があります。原則として日・祝以外は営業しており、ランチや休憩に利用できます。

建物の特徴

キャンパス内には何箇所か「京都大学桂キャンパス」と表示された看板があります。この行書体の「京都大学桂」の部分は、京都大学附属図書館が所蔵する国宝の『今昔物語集』巻第27から集めてデザインされたものです。また、研究棟の建物の壁面に貼られた横長タイルは信楽焼きで、吉田キャンパスにあるレンガ造りの建物の色を赤色タイルは理系、黄土色のタイルは文系の色合いを象徴しています。

御陵公園の横、Bクラスターに立つ桂キャンパス



プロムナードと時計台

のモニュメント・時計台は、鋼に匹敵する強さを持つ、当時最高の超高強度コンクリートを用いた、中が空洞の「開断面構造」になっています。

(京都大学大学院工学研究科・建築学専攻 渡邊文生名誉教授「京都大学工学広報」2008.4 No. 49 p. 13より)

Aクラスターの建物内部にはダクトが張り巡らされています。これらは実験等で出された化学物質が、環境を汚さないように、空気を浄化して外に排出する装置で、景観に配慮して建物の内部に設置されています。



誰でも利用できます

構内には生協売店、学生食堂レストラン「セレネ」、カフェ「アルテ」、イートインできるパン屋さん「リユージュ」、カフェ「ハーフムーンガーデン」、フレンチレストラン「ラ・コリーヌ」があり、一般市民にも開放されています。とくにセレネ、アルテの外に設置されている展望バルコニーは京都市の中心部と南部が一望でき、地域住民にとっても憩いの場となっています。(学生、教職員の方の利用される昼休の時間帯はご遠慮くださいということです)



展望バルコニー



カフェ「アルテ」

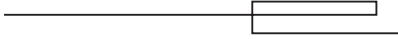
エコキャンパス

京都大学は地球環境問題に関する研究・教育を行っており、省エネを意識して運営されています。その取り組みは、環境省より表彰されるなど大きく評価されています。その中のひとつで、京都大学が企画する行事に「竹の環プロジェクト」があります。環境・防災・文化の横断的な視点から、産・学・官・市民が連携して、桂キャンパス内の竹林保全を实践する、竹林間伐ボランティア活動です。秋の間伐と春の筍掘りをひとつのサークルとして、年二回活動しています。



Neo 西山文化

洛西地区にふさわしい名をもつ、この「Neo 西山文化」は、芸術と文化に科学技術を融合して、新しい「西山文化」を作り出せないかというコンセプトのもとにできた、国際日本文化研究センター、京都市立芸術大学とのコラボレーションで、「西山祭典」「京大 IIO・ロームフェア」などのイベントを開催しています。



桂坂京大キャンパス問題連絡協議会

桂キャンパスは、地元住民との話し合いを通じて、建築計画や工事の予定や進め方が確定し、建設されました。

1994（平成6）年	新キャンパスの基本計画策定 学内に新キャンパス委員会設置 候補地の調査検討開始
1999（平成11）年	工学研究科・情報学科の桂キャンパスへの移転を決定
2000（平成12）年5月	京大桂キャンパスと隣接する、もみのき、さくら両自治会を対象に京都市、京大、都市基盤整備公団の説明会の開催
2000（平成12）年7月	桂坂小学校において両自治会を中心とする地元住民への説明会開催
2000（平成12）年8月	桂坂自治連合会内に桂坂京大キャンパス問題連絡協議会設立
2001（平成13）年1月	総合研究棟 I、II、桂インテックセンターなどの建設に着手
2002（平成14）年11月	完成
2003（平成15）年10月	18日 竣工式 開校式挙行 以後順次竣工、完成
2009（平成21）年現在	A～Cクラスターまで完成
2009（平成21）年7月	Cクラスターの物理系の施設を建設に関する説明会

桂坂京大キャンパス問題連絡協議会の構成メンバーは自治連合会本部役員と隣接するもみのき・さくら両自治会の代表、各種団体長、各自治会長です。

この連絡協議会との話し合いの結果、特にCクラスター「総合研究棟」の建設に当っては当初の計画から大きく変更されました。

住宅地に最も近いために、高さの点や原案では大型の建物7棟であったものが、「小さく10数個に分けられ」ました。大きな壁面からくる威圧感を軽減するためです。ほかにも「大型の実験室は地下に設置」され、「屋上は緑化」され、「周辺道路の高低差に合わせて建物の高さを抑え」景観にも配慮されました。また、「隣り合う棟の間隔を広く」取って、「住宅地側に大きな緑地ゾーンを確保」といった具合に、配慮がみられます。



さくら自治会から見たCクラスターの建物と緑地

作業時間も秋～冬期、春～夏期それぞれに合わせて、工事車両の運行時間も大型資材の搬入、搬出、生コン搬入等に分けて決められました。もちろん国道9号線の渋滞する時間は避けられ、一日の運行台数も決められていました。

このように桂坂自治連合会内に設置された「桂坂京大キャンパス問題連絡協議会」との話し合いをもとに、今のような景観、地域との調和を考慮した、開かれたキャンパスが実現しました。これらは桂坂住民の意見、希望、そして「桂坂京大キャンパス問題連絡協議会」の努力なしには実現しえなかったであろうと思われます。



道路南側の緑地はエネルギーマネジメントセンターの屋上庭園（上の写真）、エネルギーマネジメントセンターの裏側（下の写真）

桂イノベーションパーク

JSTイノベーションプラザ京都

バス道路のローム記念館前を通過して9号線に向かって下る時に、西側の斜面にそびえる大きなガラス窓の白いビルがあり「何の建物だろう？」と思われることがあると思います。



この建物は「JSTイノベーションプラザ京都」といい、独立行政法人科学技術振興機構が設置・運営する施設です。大学での独創的研究成果を、できるだけはやく産業界へ提供できるように、企業と大学が共同で「最先端の科学技術の研究をするお手伝い」をしています。お子さんを持つ方には「親子科学体験教室」でおなじみかもしれません。

「親子科学体験教室」は、2004（平成16）年度から年に二回開催されています。近隣の小学生を対象として、理科の内容を上手に説明する人を「JSTサイエンスレンジャー」に認定し、子どもが楽しむような科学実験を行っています。人気者のサイエンスレンジャーには桂高校の理科の先生もおられます。毎回たくさんの応募者があり、地域の方が楽しみにされている催しです。

実施年	タイトル
H16	紙飛行機を作ろう
	手作り蒸気船を走らせてみよう～気体は力持ち
H17	無重力を体験してみよう
	光ってなに…光の正体をみつけよう！
H18	クマちゃんブランコで大車輪～ブランコはなぜこげるのか？
	空気はすごい力持ち！
H19	風船を科学しよう！
	オーロラを作ろう！
H20	スイスイゆらゆら樟脳ボート！
	エアージョーダン～冗談みたいな空気の実験！？
H21	万華鏡を作ろう



京大桂ベンチャープラザ 北館・南館

JSTイノベーションプラザの南側と裏側にあり、大学の最先端技術を実用化して、新事業に取り組む「中小ベンチャー企業」をアシストする施設です。

ここでは日本が世界に誇る最先端技術が生まれ、驚くような製品が開発されています。また、ここに入っている企業の中には、近隣の小学校にパソコンの寄付をしたり、学生の研究の特許出願のサポートなど、地域・学生の教育の援助活動をしているところもあります。



研究開発型企業エリア

北館、南館よりさらに南の国道9号線に近いところには、企業が数社、建物を建てて操業しています。これらも京都大学との共同研究や多くの産業支援機関との連携などにより、新製品の開発・事業化、技術革新などを図っている企業です。



担当 浅田泰子・竹中法子・村上敬衣子